**板堂峠**

板堂峠は山口県北部の萩市と南部の防府市を結ぶ歴史街道萩往還の最高地点にあたります。標高 537 メートルで尾根を切り開いており、最も狭い部分の幅は 4 メートルもありません。登山口は峠から東鳳翩山 (734 m) の頂上に通じており、そこから山口の内陸部と沿岸部のパノラマを眺めることができます。峠の近くには旧周防国と長門国の境界を示す石碑もあります。

萩往還は17 世紀から 19 世紀にかけて現在の山口県を通る主要ルートの 1 つでした。大名やその家臣から武士、商人、人夫まで幅広く利用されました。峠を越えて南から北に向かう萩方面への道は急勾配で、峠に至る42 か所の曲がり道があるため特に困難です。

地元の鉱夫はこの峠を利用して山を越え統治者である毛利家が管理する一の坂銀山で働いていました。鉱夫たちは峠に建てられた小さなお堂で仕事から無事に帰れるよう祈りました。板堂とは「こけら屋根の堂」を意味し、堂はもうそこに建っていませんが峠の名前は萩往還を歩いた人々にとってそのお堂が重要だったことを示しています。